

2021 年度 人間学群生の学修・進路状況に関する調査

人間学群の教育改善に向けた提言（要旨）

人間学群学生専門委員会

・本学に入学した動機・目的は、「学ぶ内容に興味があった」が最も高く、次いで「資格を取ることができる」が高い。広報活動において「学ぶ内容」や「取得できる資格」を明確に示すことが、本学群受験への関心を高めることにつながると考える。

・大学説明会は本学の入学動機のひとつになっているが、説明会に参加している学生は約半数である。2020 年度に高 3 であった 1 年生において、27.5%と低いのはコロナ禍が影響しているものと思われる。オンライン開催となった場合にも多くの高校生が参加できるためのしくみを工夫する必要がある。

・大部分の学生は熱心に授業に取り組んでいるが、一方で約 4 分の 1 の学生は学修が予定よりも遅れている。その要因は様々である。

・所属学類・他学類における授業満足度は全体的に高いものの、学年別にみると 1・2 年生が 3・4 年生に比べて低い。専門科目が少ない等の理由が推測されるが、コロナ禍の影響が少なからずあると考える。

・実際に入学した後に期待通りだった点について、専門分野の授業をあげるものが最も多く、学生の期待に対して概ね応えられていると考えられる。

・多くの学生が「授業」に期待や関心をもって入学し、計画通りに学んでいる。学業面の興味関心が変わっていないという学生は全体で 6 割を超えており、入学時の目的や興味関心に沿って学修を進めていることが見て取れる。一方で、入学時と異なる新たな目的を見つけた学生も 3 割を超えており、大学生活を通して新たな目標を見つける学生も一定数いる。人間学群の学びの中で新たな出会いが得られるよう、学生が参加しやすい形式の講演会、研究会、研究プロジェクトなどを企画することが必要であり、人間フィールドワークの拡充やチュートリアル教育の機会提供も有用である。

・約半数の学生が将来に何らかの不安を感じており、特に就職について不安をもつ傾向がある。大学の授業をきっかけとして、進路希望が熟成していくことも示されており、学群から学生に対して情報発信していくことは有用であり、2 年生・3 年生の段階から就職・進学を見据えて継続的にキャリア教育を実施し、不安を軽減することが期待される。

・4 年生のうち、在学中に進路希望に変更があった学生は全体的には 3 割程度である。第一志望で入学してくる学生が多数であり、学類選択にも進路にも迷いが無いことが人間学群生の特徴とみることもできよう。